

雌阿寒岳

1 概況（平成 15 年 2 月）

観測データに大きな変化はなく比較的静穏に経過しました。2000 年以降ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙活動はやや弱まる傾向にあります。

2 噴煙活動の状況

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙高度は概ね火口上 100～200m 程度で推移し、赤沼西方噴気孔、中マチネシリ火口についても特別な変化はありませんでした。

3 地震活動の状況

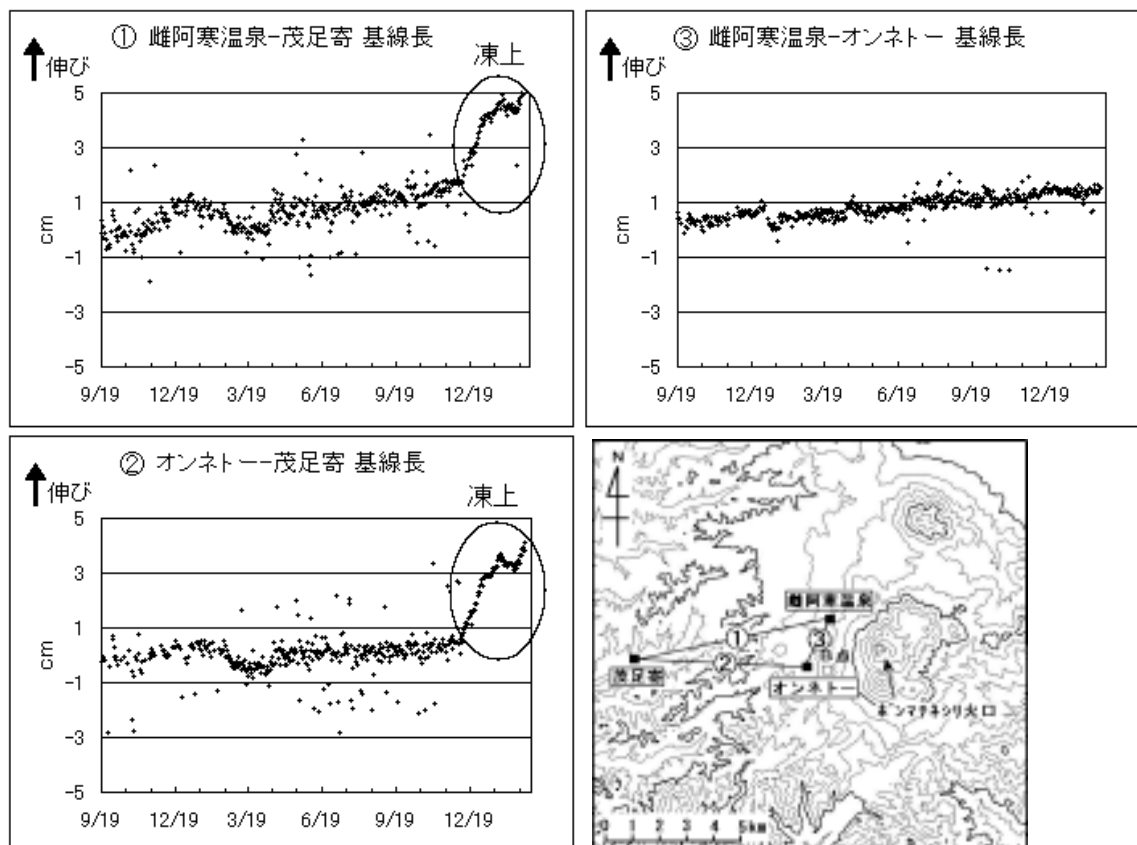
地震回数は 13 日に 16 回、18 日に 10 回とやや増加しましたが、それ以外は 1 日あたり 0～5 回と平常レベルで推移しました。震源は従来と変わらずポンマチネシリ火口の浅いところと推定されます。火山性微動は観測されませんでした。

月別地震・微動回数（B 点）

2002～2003 年	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
地震回数	204	17	11	20	32	25	34	21	20	39	204	83
微動回数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0

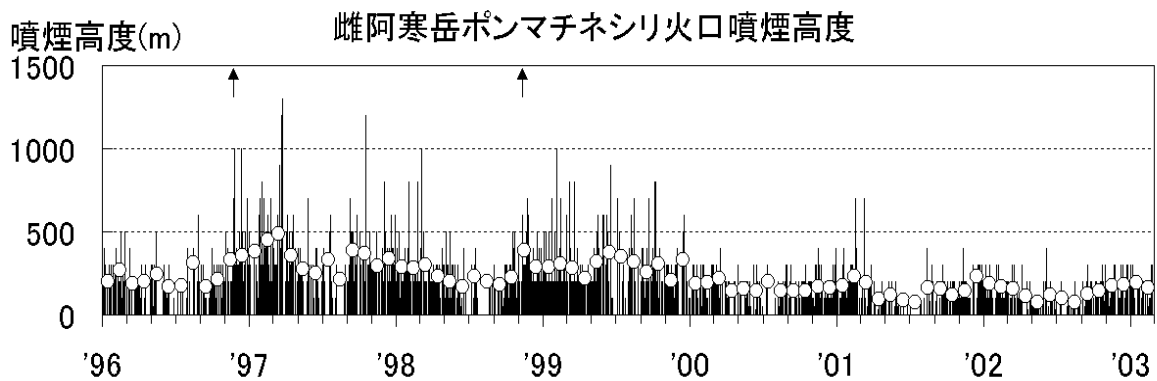
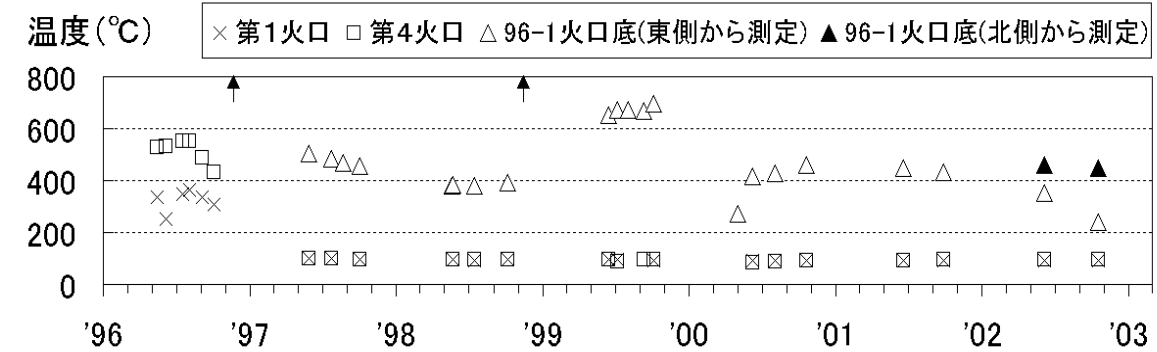
4 地殻変動の状況

G P S 観測で見られる基線長の変化は主に季節変動が原因と推定され、火山活動に起因すると考えられる変化はありません。また、昨年 12 月頃から①②の基線長に見られる顕著な伸びの変化は、③には認められないことおよび現地調査の結果などから、茂足寄観測点周辺の地面が凍上したことによると思われる。

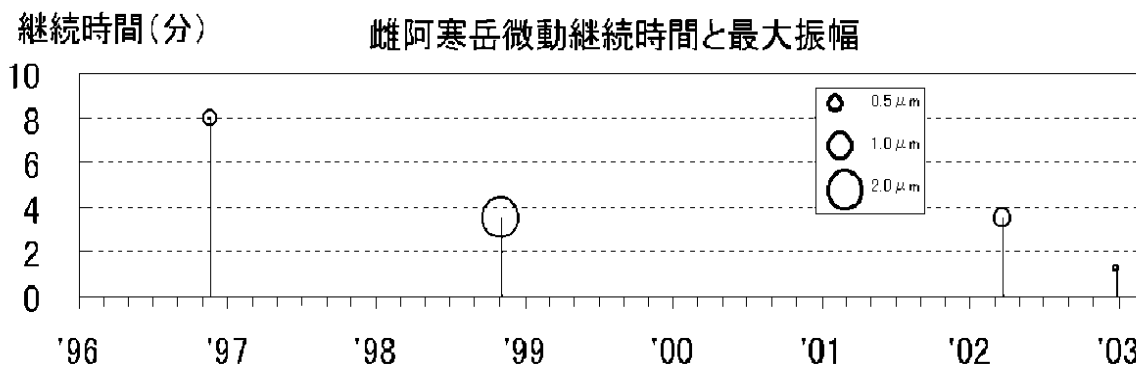
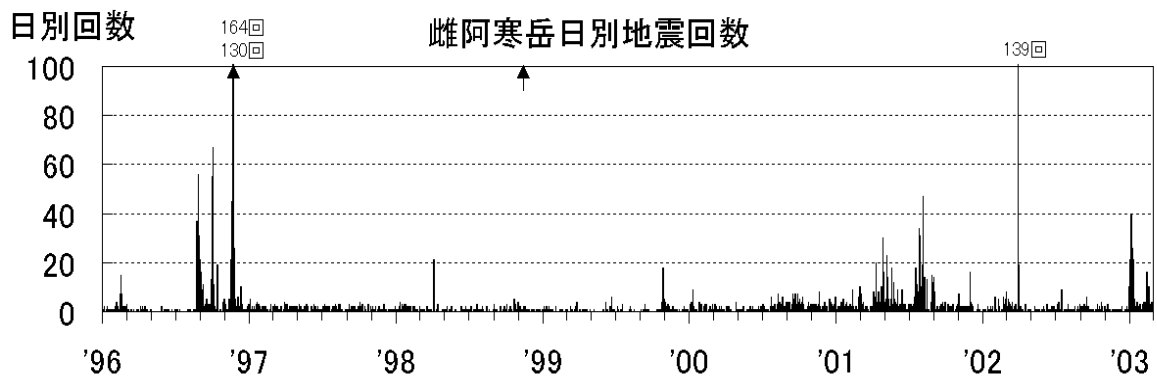


雌阿寒岳基線長変化（2001 年 9 月 19 日～2003 年 2 月 28 日）

雌阿寒岳ポンマチネシリ火口温度



噴煙高度の棒グラフは定時観測(09・15時)の日最大、○印はその月平均



雌阿寒岳火山活動経過図（1996 年 1 月 1 日～2003 年 2 月 28 日）↑印は噴火